

昭和18年7月1日（木）

午前3時頃より降雨。農家水不足の為、田植え不能の向きは、此雨千鈞の重みあり。切手請求及び請取り共、余行く。雨甫々（ほほ）。葉書八千、封緘六百は可なり肩が痛かりし。午後2時頃、福岡末広某臨局。余の土地問題に付き種々懇談す。余は売ることは絶対承諾出来ぬ。換え地及び貸与のことなれば考慮すべし。但し、換え地は場合に依りて応諾せざることあるべし等々。一時間にして販らる。坊や痒しと云ふは、黴菌の作用にて飛び火の如く、余もミワさんも伝染せり。薬を求め皮膚に磨り込む。幾らか効果ある如し。

昭和18年7月2日（金）

雨猶烈し。但し時々小歇み、思ひ出した様に降りしきる。河川溢水（いっすい）の憂いあり。饅頭配給、一時に数ヶ平らぐ。餡は腐敗し易しとて要求通り遣る。夕方湯に行き、次いで中殿に坊や連れ行かる。横田の前を過ぎ勝恵ちゃんと叫び、立ち寄らしむと。阿爺（あや）喜び迎ふと。午後9時過ぎ帰らる。仕事を早く止めて蚊帳に入る。坊や10時半漸く睡る。夫れまで眠る能わず。坊が寝入りて腹帯して遣る。此夜蒲団を汚さざりし。

昭和18年7月3日（土）

雨、朝の間降らず掃除す。塵埃山積。炭俵持行き、之に塵取りに来る間にもと用心して居ること肝心なり。睡魔の所業斯くの通り。夕食味飯頂く。翌朝まで残らぬ様に炊かる。足らなくては不可故、幾らか剩る様焚かる。残余は多少無理でも平らげらるるらし。朝の粥は正午に食べらる。夜、町内会長来局。国債千九百九十五円、自ら持

参さる。会長は47歳と謂はる。率先垂範、町内漸く明朗を取戻す。

昭和18年7月4日（日）

黎明と共に歇む。街路掃除、簡単に済ます。冠水路道多ければなり。屋内及び事務室共掃除す。坊や負はれて神詣です。午睡一時間余り。パン拵へらる。夕食にテンプラ（南瓜、ササゲ、甘菜あり）。7時より巖に坊連れ行かる。10時近く飯らる。恰度夕食中少時待たる。秀樹小用を済まして睡り、和博等勉強して寝る。

昭和18年7月5日（月）

昨11時半頃、泥棒が塵芥入り置き台とし、電柱に挙登して硝子戸に手を掛けたるも、森田さん障子に写りし影に依り発見。其の内に零時5分上り汽車の客が見え、影を密めたるが臆（やが）て再び明けんとする気配を察し起床、下に電燈を点火し起きたる様子に、何れにか姿を消したる由。駅派出所に通告置きたり。どうも昨夜寒さに戦慄を感じ、此日発熱37, 3。午後零時より一時間横臥す。切手請求見合わせたるもよかったと思ひぬ。降雨。

昭和18年7月6日（火）

切手請求及び受取共、余行く。資金請求千円、序でに持来す。雨甚だしからぬも降りつづく。ミワさん胃腸障碍と認めらる。横臥、朝食を欠く。朝も夕も粥。佐世保より故昌江五年祭11日に延期、余の来着を俟居る旨、通知あり。嫁も列席云々とあり、寿夫の嫁を指すと認めらる。百円多く切手為替係に渡す。

昭和18年7月7日（水）

曇り。夕方、時寶堂へ坊やを連れ、一銭切手千五百枚持行く。ミワさんが行く筈を注意したるに、種々弁解がましきこと云ふ。余自ら持行くことにしたるもの。序でに坊やに引かれて、駅裏通りより中殿に出て、駅荷物置き場を過ぎて販る。次いで坊や風呂に連れ行かる。天気は次第に晴れ模様。

昭和18年7月8日（木）

晴れ。急に熱くなる。門司局長に関澤進を送りて、丹治金三郎氏を迎ふ。電話あり。忙しさに電話にかかる。道子より貢に送りし手紙の内、一通戻り来る。肩書き何と書くかと云ふ照会。直ぐに返事出さる。此の日貴船神社祭典、神酒頂きに坊や連れ行かる。夜坊やに応へられお詣りす。絵馬堂に提灯数個垂（たれさが）りあるも、人出少なく甚だ淋し。佐世保へ昨7日、櫛料三円発送す。序でに参堂出来ぬ旨断る。

昭和18年7月9日（金）

晴れ。余の机の位置を換え、切手類保管箱をも移す。道子に小包。蒲鉾3本求め、うどん5把、及び淳の為に、坊と共に求められし洋服を入れ遣る。頃日、坊や無遠慮に小便する所を選ばず。夜は変わることなく容易に睡らず。此の余も11時に迄（およ）ぶ。消燈してねむる。向いの秀男ちゃん遊びに来る。悪戯が烈しいので迷惑して居るが、泣かぬうちは連れて販らぬ。

昭和18年7月10日（土）

快晴。肋間神経痛らし。左胸部肋骨内部に痛みを感じず。

午後荒巻さん早退。午後3時より小竹行き。昭子さんも一緒に飯る。学校より飯りが遅く、発車に五六分位を残すに過ぎず。漸く間に合ふ。坊や昼寝せず。午後7時頃より睡る。道子より葉書。塩、蚊遣り香贈れとある。

昭和18年7月11日（日）

快晴。昨日までにて梅エキス出来、昨年の瓶に8分目程出来たり。5升の青梅が、僅かに盃に二三杯となる貴重品と化す。坊や午後2時より睡る。ミワさん塩、うどん、マッチ等手に入れて来らる。福島クニさん店より。但しうどんは、横田の前の製造元より一円分貰ひ来らる。梅エキスを作る容器を載せる箱物に適当な物なく、無烟炭入れ箱物を石炭を取去りて利用したる外、馬鈴薯など入れ置きたる箱物をも利用せしが、何れも今日夫々元の姿に還元せしめたり。夕食に鯖を求め来らる。牛乳は搾乳所（細川病院近所）まで、朝7時から8時、受取に行かねばならぬこととなる。面倒として廃止せば、後より要求に応ぜぬと云ふ。其の為、権利の放棄を惜しみ、嫌々ながら受取に行く傾向著し。午後8時半昭子さん安着。坊や昼寝した結果、容易に睡らず。11時を過ぐ。年功加給増、申請作成。

昭和18年7月12日（月）

8時2千円受取に行く。今日より給与金支払い偶数日なるも、切手請求見合わす。荒巻さん一番汽車にて小竹出発。10時頃来局、自宅に赴かしむ。正午近く飯局。其の儘執務。坊や豊田校に体格検査に行く。

昭和18年7月13日（火）

曇り。夕方雨模様、遂に降る。坊の体格検査は泣き出して、医に診せが手古擦らる。夕方より、公会堂に於ける火野葦平氏講演会に、森田氏とミワさん行かる。夜10時過ぎ眠らる。

昭和18年7月14日（水）

晴れ。切手請求及び受取に行く。午後3時頃より坊を連れ駅に行き、一時間以上遊びたり。それだけ仕事が残り、11時近くまでかかる。昼寝せしめず、夜7時過ぎより寝る。殿町新局長挨拶に来らる。

昭和18年7月15日（木）

晴れ。ミワさん昨午後より微恙（びよう）、早く寝らる。本朝5時起床。午後1時神様行き。横田の赤ちゃんお宮参りに、蒲鉾50三本持来らる。眼科医かかり行かる。抵園農家休養期間、横田爺婆田舎よりの招待に応じ目下留守。山神幾組か見ゆるも、町廻りせず。森田さん昨急に発熱。異状あるものの如く、午後3時より早退寝て居らる。実家に速達出さる。皆心配したるも、今朝元気余り変わらぬ如し。10時頃より相談所に行かれ、1時近く眠らる。5日分服薬、次いでレントゲンにかかることになりたる由。先生より皆変わりなきやを聞かる。近頃、一向無音に打過ごし居りある為と思ひ恐縮せり。

昭和18年7月16日（金）

午前3時頃より降雨。黎明歇み、後再び風を交へ猛雨。恰度、学校行きの子供が途中にある頃なり。午後より歇み、夕方全く霽れる。1時前後、牧鶴居局長臨局。一時

間近く咄して行かる。雨降るに傘の準備なきものの如し。ミワさんに後を逐（お）わしむるに、飯屋にでも入りしものか、姿を見せざりし由。夕食後、坊を負うてミワさん停車場行き。折柄、山車数台蛭子町に集まる。これに踉（つ）いて龍王まで行きし由にて、10時過ぎ還らる。

昭和18年7月17日（土）

晴れ。坊を連れ10時頃、貴船神社に至る。絵馬堂に多数の子供に交へ、秀夫坊、職人の娘と居る。娘は坊やを上げらせんとするも、秀坊、坊やの頭を押して上げらせず。坊や泣く。余連れて枝町に出て、山車の踊りを見物して帰る。夜10時前寝に入る。

昭和18年7月18日（日）

午前3時ミワさんも起床。4時坊を起こして母堂と中津公園に行かる。人出広域を埋め、山車集まり至芸を演じて自己の町内に帰る。朝飯持参を以て遠く来る者、二三時頃より来れる者あり。頗る賑わいを呈したりと。坊や猿を見て帰る。午後二時間睡る。夕7時寢床。余も9時に睡る。但し、坊やを小用に起こすこと数あり。矢張り熟睡すること能わず。夕飯鮓ばら海老を入れらる。

昭和18年7月19日（月）

此の朝6時よりミワさん公園に坊を連れ行き、猿を見て還る。牛乳、昨日より合馬氏方にて受取ることとなる。それまで数日、豊田町と栄町との中間配給所にて受取居たるもの。7時より坊湯に行く。

昭和18年7月20日（火）

昨日より曇りがち。夫れでも降らずに経過す。此の日も快晴に至らず。朝掃除の際、降ること見えしも降らざりし。筋向かいの花屋の息子19、昨年来嫁を迎えて、本町角写真屋の隣にて理髪屋開業の者、今回徴用令に依り黒崎に召集のこととなり、本朝多数同士と大分集合。下り列車にて出発す。ミワさん等見送る。同人は昨夜挨拶に見えたるもの。此の朝10時、栄町局長見えたり。午後は大畑要一氏（中津局書記）、為替貯金関係にて臨局。夕方は森田氏母堂来らる。坊や連れにて賑やかなり。ミシン器械据附け276、40、付属品4、50支払ふ。付属品代中には針二本分も算入されあり。絲は配給品にして業者より調達の外なし。夜9時半就寝。

昭和18年7月21日（水）

昨日より土用入り。澄子より手紙。貰ふことは忘れぬが貰ったことは忘れる云々、書き誌したことに対し、気を悪くさせ気の毒の憾みあり。葉書返事遣りたり。森田氏母堂、台所踏み板を片付け、泥を掃除、踏み板を乾かして下さる。坊や胃腸悪く夜半小用に起こせし際、大便す。其の際腹痛あるらし。豊後町局長臨局。表彰組に入り23日出発らし。此朝、坊6時前神詣でより公園地に行かる。負はれた儘。平素は蹠跣（かせん）で駆け廻るのが、此日は下に降りず販れる由。夕方湯に行く。此の日より夜のうどんは、母堂を煩わすこと、不経済なること、水にて洗ひ差支えなきこと等の理由に依り、湯を沸かすことは廃止して貰ふ。従って朝の茶は明日より取罷む。夕方より雨。（澄子の手紙には、オルガンを150円にて秀夫にやる。其の金をミシン代に廻すらし。）

昭和18年7月22日（木）

夜半烈風。便所掾側に雨滴飛散。黎明歇まず。事務室内暗く能率上がらず。麴麴造らる。坊や喜び食す。坊や右側の齒茎痛むらし。物を食べれば泣く。角野先生かかり5時頃行かる。口を開かず、漸く開かしめ診察さる。齒と齒の間が腫脹し、噛む時肉腫に触れ痛むらし。二三日中癒るとのこと。明日大分行きの為、此日湯に坊や連れ行かる。森田さん父兄会に出席さるべきを母堂臨まる。牛肉の配給は、隣保班にて世話することとなり行列の必要なきに至る。終日降り続く。

昭和18年7月23日（金）

3時起床。朝5時30分前後歇む。掃除す。朝食、ミワさんと一緒に4時半より始む。坊や4時半頃起床、駅に連れ行く。自分も乗りたいと泣きしも、直に泣止み、手を挙げてサヨナラす。栄町、豊後町も同一列車にて出発。午前7時頃より雨、再び降り出す。4時頃坊を連れ駅に行きしも、汽車着発なく坊泣く。午後6時30分迎えに出掛ける途中、飯って来らる。7時近く夕食。終日降る。木下主事阿蘇湯谷鍊成会に出張、此日飯局。汽車不通箇所、徒歩して飯らる。東国東方面は汽車不通箇所あり。同方面の優績局員は誰も出席してなかったと云ふ。冷涼の氣、漲る。発汗せざりし。

昭和18年7月24日（土）

為替竹折主事、阿蘇鍊成会に木下主事と交代に、5日間出張。リュックサック、ゲートル姿で出発。雨傘を預けて駅に行かる。汽車不通の箇所あり。延着を重ね待合室



は大混雑を呈す。一度販宅して出直すとて、預けし雨傘は持って販らる。10日振りで切手請求。正午近く資金請求と共に、切手類を受取りに行く。雨は小降りになりたるも、依然降り続く。此日売捌き所よりの請求多数に上る。夕方近く天候恢復の兆しあり。雨は全く歇みたり。森田氏母堂、此朝余切手資金払込の為、中津局に出掛けての留守中、販宅さる。表面の理由は典子の病気は思ったように悪くない、このまま続けて行け相だから販るとあり。突然で何の土産も差上げ得ざりし。聞けば母堂は奇麗好きで掃除を克くやらると。

昭和18年7月25日（日）

朝の間晴れ。間もなく曇り一時雨。雲に蔽われしも臈（やが）て再び霽れる。猶、天候不定の観あり。大掃除施行の心組みなりしも、見合わせたり。森田さんに駅送り荷物着、トマト沢山到着。過半腐敗。勿体ないと幾分か悪い方より選抜、食せしが果然下痢。夕方便所行き。少しでも悪いのは食すべからずとの啓示なり。澄子へ、貢へ葉書認む。

昭和18年7月26日（月）

晴れ、後曇り。午後2時頃降雨。印紙請求、現品受取に行かず。ミワさん貢氏に手紙書き。朝4時頃より7時過ぎまで。夕方湯に行かる。朝街路掃除一時間を費やす。塵埃溜め前に木炭俵3つ並ぶ。芥溜めに入り切れぬ為なり。此日大方持去る。雨は夜にかけ猛烈。再び出水の惧れあり。夜9時坊や寝る。割合早く、余も寝ることを得たり。

昭和18年7月27日（火）

掃除出来たり。埃溜め綺麗になり気持ちよし。此の朝、林氏宅より逃げた鰻、森田さん姉妹で泥濘より引揚げ、得意らしく話すを聞く。林氏後刻気付き、鰻籠が濡れて居るに目を付け、犯人を我家に向く。余、後刻之を聞き甚だ不快に感ず。斯く場合林氏に告げ、捕獲は同氏に任すべきものなり。ミワさん午後、坊を連れ中殿町に行かれ、大蒜百匁80銭を五百匁、外にトマト五百匁程求め来らる。爾も私金の一文も持合わせなく求め来らる。夕食前、油味噌作り大蒜を加ふ。坊事務室に来て、小包の上に横臥して3時過ぎ寝る。一時間余眠り、夕餉を済まして起こしトマトを与ふ。大きなもの過半食べたり。ミワさんと湯に行き、駅に半時間遊び皈る。此日二百余円函場より請求あり。一時に持合わせ減少する。夕方より降雨、夜に入り甚だし。切手不足分請求準備す。

昭和18年7月28日（水）

雨。切手及び印紙請求。午前11時半、切手は出来て居るが阿部さんの検査未了の為、渡して呉れぬ。20分程待たされ正午漸く受取来る。午後より函場より請求あり。印紙も10円5円等、持行く。坊や今日も湯に連れられ行く。夕食うどん。朝街路掃除せず。坊や2時頃昼寝。夕食時起こす。トマト与ふ。夜9時半頃より寝せたるも容易に睡らず。10時頃睡る。坊やうどんを食べ、トマトも余を見倣ひ食す。

昭和18年7月29日（木）

朝掃除す。切手類湿潤は、以て雨上がりを諷せず。坊や2時頃より就寝。野口留屋氏より暑中見舞い着。返信認

む。昼寝した坊やは夜に入りて容易に睡らず。常会に坊を連れず。其の間、余坊を連れ停車場に少時遊ばす。上下すれ違いの汽車を見送り販る。8時頃より床に入れたるも、矢張り10時近くまで眠らず。余仕事もせず坊を寝かす為、自ら華胥（かしよ）に入る。10時ミワさん等販らる。

昭和18年7月30日（金）

朝掃除。水滴りを除けて営む。8時40分頃より、中津局に切手払込金納付。午前11時半、資金請求がてら切手類受取に行く。既に二階に持込みあり。葉書なき為、楽に販る。夕方トマト坊に与ふ。漸く好きになり二ヶ位食ふ。夜に入り風呂より販りても食ふ。追加購入し来らる。これも二ヶ程平らぐ。

昭和18年7月31日（土）

晴れ。愈々灼熱の土用らしさに還元す。此日前田さん八幡に、岩尾さん別府に、森田さん大分に、各5時前後出発さる。澄子2時頃突然来る。萩の餅持参。澄子前夜より造りし由。糯米は上田谷地より貰ひ来る。ミシンは購入の有無、承知し居らぬものの如し。ミシン屋の女将を招き不具合を見て貰ふ。横田勝恵ちゃん急性腸カタルにて井上医院に入院。一時危篤、挙家看護に力め、医院に詰切り販宅せぬらし。ミワさん見舞に行かる。危機はとり止めたらし。一晚寝ずに泣き腫らしたらし。天候定まりたらし。